

## 深谷市のレンガ

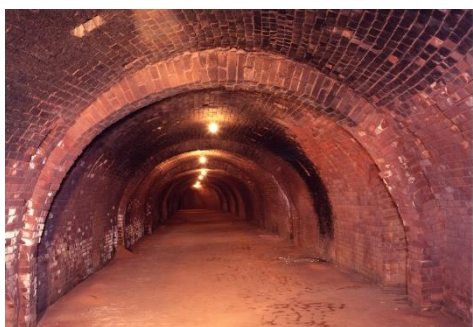
栄一は、欧米を模範とした近代的な都市計画を進めるためには、建築資材としてレンガが必要不可欠と考えていました。故郷の深谷の土がレンガ生産に適していることに着目すると、明治 20 (1887) 年に設立した日本初の機械式レンガ工場である日本煉瓦製造会社を、現在の深谷市上敷免に設立したのです。工場に現在でも保存されているホフマン輪窯 6 号窯は、貴重な歴史遺産として国の重要文化財に指定されています。深谷市は、JR 深谷駅舎や深谷市総合体育館（深谷ビッグタートル）など、レンガを使用した施設づくりを行なっています。

### 【誠之堂・清風亭】

栄一の喜寿を記念して建てられた誠之堂と隣接する清風亭は、平成 11 (1999) 年に世田谷区瀬田から移築されました。

誠之堂は、栄一の喜寿を記念して、大正 5 (1916) 年に第一銀行が所有していた「清和園」に銀行関係者の有志の寄付で建てられました。誠之堂は、煉瓦造り平屋建、イギリスの農家風の外観をしています。この煉瓦は深谷で生産されたものです。誠之堂を設計したのは、大正時代を代表する建築家、田辺淳吉です。大正建築のモダンな潮流をつくり上げ、天才と称賛されました。

清風亭は、栄一の跡を継いで第一銀行の第二代頭取となった、佐々木勇之助翁の古希を記念して大正 15 (1926) 年に建てられたものです。ステンドグラスに出窓、半円型のアーチが連続するベランダが印象的です。



ホフマン輪窯 6 号窯 【提供：深谷市産業振興部】



誠之堂



J R 深谷駅



清風亭

### ●深谷の煉瓦の建築

現存するものだけでも、東京駅、法務省旧本館、迎賓館、日本銀行など、日本の近代を支えた名建築が数多く挙げられます。



東京駅



法務省旧本館（赤れんが棟）【提供法務省】